

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 17 年 6 月 30 日 (2005.6.30)

【公開番号】特開 2002-66079 (P2002-66079A)  
 【公開日】平成 14 年 3 月 5 日 (2002.3.5)  
 【出願番号】特願 2000-254326 (P2000-254326)  
 【国際特許分類第 7 版】

A 6 3 F 7/02

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 8

A 6 3 F 7/02 3 0 4 Z

A 6 3 F 7/02 3 0 6 C

A 6 3 F 7/02 3 5 0 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 10 月 14 日 (2004.10.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技領域に複数の入賞口を備え、各入賞口への入賞数を特定可能な情報を出力する遊技機の遊技情報を管理する遊技機の管理装置において、

前記遊技機から出力された前記各入賞口への入賞数を特定可能な情報を入力する入力手段と、

前記入力手段にて入力した前記各入賞口への入賞数を特定可能な情報に基づいて、第 1 の規定時間における前記各入賞口への入賞数が第 1 の規定値を越えたか否かを判定する第 1 の判定手段と、

前記入力手段にて入力した前記各入賞口への入賞数を特定可能な情報に基づいて、第 2 の規定時間における前記複数の入賞口への総入賞数が第 2 の規定値を越えたか否かを判定する第 2 の判定手段と、

前記第 1 の判定手段が前記第 1 の規定時間における前記各入賞口への入賞数が前記第 1 の規定値を越えたと判定した場合、または前記第 2 の判定手段が前記第 2 の規定時間における前記複数の入賞口への総入賞数が第 2 の規定値を越えたと判定した場合に、その旨を報知するための報知動作を実行する報知動作実行手段と、

前記第 1 の規定値を各入賞口毎に別個に設定可能な第 1 の設定手段と、

前記第 2 の規定値を設定可能な第 2 の設定手段と、

を備えることを特徴とする遊技機の管理装置。

【請求項 2】

前記第 1 の設定手段は、前記第 1 の規定時間と前記第 1 の規定値とをそれぞれ各入賞口毎に別個に設定可能であり、

前記第 2 の設定手段は、前記第 2 の規定時間と前記第 2 の規定値とをそれぞれ設定可能である、

ことを特徴とする請求項 1 の遊技機の管理装置。

【請求項 3】

前記各入賞口への入賞数及び前記複数の入賞口への総入賞数には、遊技機の遊技領域に設けられた大入賞口への入賞数を含まないことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 の遊技

機の管理装置。

【請求項 4】

前記報知動作実行手段が実行する報知動作は当該遊技機における遊技を停止させる動作を含むことを特徴とする請求項 1、請求項 2 又は請求項 3 の遊技機の管理装置。

【請求項 5】

前記第 1 の設定手段は、前記各入賞口毎の前記第 1 の規定値を各遊技機毎に設定可能であり、

前記第 2 の設定手段は、前記第 2 の規定値を各遊技機毎に設定可能である、

ことを特徴とする請求項 1、請求項 2、請求項 3 又は請求項 4 の遊技機の管理装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

【課題を解決するための手段】

請求項 1 の発明の遊技機の管理装置は、遊技領域に複数の入賞口を備え、各入賞口への入賞数を特定可能な情報を出力する遊技機の遊技情報を管理する遊技機の管理装置において、

前記遊技機から出力された前記各入賞口への入賞数を特定可能な情報を入力する入力手段と、

前記入力手段にて入力した前記各入賞口への入賞数を特定可能な情報に基づいて、第 1 の規定時間における前記各入賞口への入賞数が第 1 の規定値を越えたか否かを判定する第 1 の判定手段と、

前記入力手段にて入力した前記各入賞口への入賞数を特定可能な情報に基づいて、第 2 の規定時間における前記複数の入賞口への総入賞数が第 2 の規定値を越えたか否かを判定する第 2 の判定手段と、

前記第 1 の判定手段が前記第 1 の規定時間における前記各入賞口への入賞数が前記第 1 の規定値を越えたと判定した場合、または前記第 2 の判定手段が前記第 2 の規定時間における前記複数の入賞口への総入賞数が第 2 の規定値を越えたと判定した場合に、その旨を報知するための報知動作を実行する報知動作実行手段と、

前記第 1 の規定値を各入賞口毎に別個に設定可能な第 1 の設定手段と、

前記第 2 の規定値を設定可能な第 2 の設定手段と、

を備えることを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

請求項 1 の発明によれば、第 2 の規定時間における前記複数の入賞口における総入賞数が第 2 の規定値を越えた場合に、その旨を報知するための報知動作を実行するようにしたので、外部からの不正行為により規定時間における複数の入賞口への総入賞数が異常に増加した場合には当該不正行為につき報知することができるようになるとともに、不正行為の判定を、遊技機に複数設けられた各入賞口毎に行うと共に、第 1 の規定時間中に、何れかの入賞口への入賞数が第 1 の規定値を越えた場合にも、その旨を報知するための報知動作を実行するようにしたので、遊技機に設けられた特定の入賞口に集中して不正行為が行われているような場合にも、確実に発見して阻止することが可能となる。更に、第 1 の規定値を各入賞口毎に任意に設定でき、第 2 の規定値を任意に設定できるようにしているので、遊技場側の要望に応じて任意に不正判断基準を設定することができるようになり、不

正行為を発見・阻止する上での利便性と確実性の向上を図ることができるようになる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

請求項2の発明の遊技機の管理装置は、上記発明において前記第1の設定手段は、前記第1の規定時間と前記第1の規定値とをそれぞれ各入賞口毎に別個に設定可能であり、

前記第2の設定手段は、前記第2の規定時間と前記第2の規定値とをそれぞれ設定可能である、

ことを特徴とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

請求項2の発明によれば、第1の規定時間と第1の規定値とをそれぞれ各入賞口毎に任意に設定でき、第2の規定時間と第2の規定値とをそれぞれ任意に設定できるようにしているので、遊技場側の要望に応じて任意に不正判断基準を設定することができるようになり、不正行為を発見・阻止する上での利便性と確実性の向上を図ることができるようになる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

請求項3の発明の遊技機の管理装置は、上記各発明において前記各入賞口への入賞数及び前記複数の入賞口への総入賞数には、遊技機の遊技領域に設けられた大入賞口への入賞数を含まないことを特徴とすることを特徴とする。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

請求項4の発明の遊技機の管理装置は、上記各発明において前記報知動作実行手段が実行する報知動作は当該遊技機における遊技を停止させる動作を含むことを特徴とする。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】削除

## 【補正の内容】

## 【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

請求項5の発明の遊技機の管理装置は、上記において前記第1の設定手段は、前記各入賞口毎の前記第1の規定値を各遊技機毎に設定可能であり、

前記第2の設定手段は、前記第2の規定値を各遊技機毎に設定可能である、  
ことを特徴とすることを特徴とする。

## 【手続補正 11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

請求項5の発明によれば、各遊技機毎に不正判断基準を細かく設定することができるようになり、不正行為の発見・阻止をより一層確実に達成することができるようになるものである。

## 【手続補正 12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0086

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0086】

この場合の実施例では画面に表示された全パチンコ遊技機に対して規定時間は1分00秒、セーフ玉数は300と設定したものとする。尚、図16の画面では台番号順で規定時間、セーフ玉数を設定したが、左下の台単位、島単位、機種単位、タイプ単位枠をマウスでクリックすることにより、台単位、島単位、機種単位或いはタイプ単位で各条件を設定することが可能である。

## 【手続補正 13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0100

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0100】

【発明の効果】

以上詳述した如く請求項1の発明によれば、第2の規定時間における前記複数の入賞口における総入賞数が第2の規定値を越えた場合に、その旨を報知するための報知動作を実行するようにしたので、外部からの不正行為により規定時間における複数の入賞口への総入賞数が異常に増加した場合には当該不正行為につき報知することができるようにするとともに、不正行為の判定を、遊技機に複数設けられた各入賞口毎に行うと共に、第1の規定時間中に、何れかの入賞口への入賞数が第1の規定値を越えた場合にも、その旨を報知するための報知動作を実行するようにしたので、遊技機に設けられた特定の入賞口に集中して不正行為が行われているような場合にも、確実に発見して阻止することが可能となる。更に、第1の規定値を各入賞口毎に任意に設定でき、第2の規定値を任意に設定できるようにしているので、遊技場側の要望に応じて任意に不正判断基準を設定することができるようになり、不正行為を発見・阻止する上での利便性と確実性の向上を図ることができ

るようになる。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 0 1】

請求項 2 の発明によれば、第 1 の規定時間と第 1 の規定値とをそれぞれ各入賞口毎に任意に設定でき、第 2 の規定時間と第 2 の規定値とをそれぞれ任意に設定できるようにしているので、遊技場側の要望に応じて任意に不正判断基準を設定することができるようになり、不正行為を発見・阻止する上での利便性と確実性の向上を図ることができるようになる。

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 4

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 0 5】

請求項 5 の発明によれば、各遊技機毎に不正判断基準を細かく設定することができるようになり、不正行為の発見・阻止をより一層確実に達成することができるようになるものである。